

性暴力被害と支援のQ & A

子どもとかかわる人のために

岡本かおり，齋藤 梓著

金剛出版，A5判196頁，3,300円，2025年11月刊

(くわな心理相談室) 山村 真

本書は性暴力被害とその支援について，これから学ぼうとする人にとって最適入門書である。関連する法律や関係する機関など，実践に役立つ内容がコンパクトにまとめられている。本書を読んで私は，過去の自分の苦い経験を思い出した。SC（スクールカウンセリング）をしているとき，性被害を受けた生徒に思いがけず遭遇したのだが，どう対応したらいいかわからず戸惑ったのである。あのとき，本書が手元にあったら，どんなに助けになっただろう。スクールカウンセリングをしていると，件数はそれほど多くなかったとしても，性暴力に遭った生徒への対応を求められることがある。しかし，この問題への対応は，司法なども絡むため，カウンセリングの知識や経験だけでは太刀打ちできない。固有の専門性が求められるのだ。本書は，そんな初学者の不安に寄り添いながら，最初にどのように対応すればいいかを懇切丁寧に解説してくれる。スクールカウンセリングやキンダーカウンセリングをしている心理職であれば，面接室の書棚に本書を一冊置いておくと安心であろう。

本書の最大の特徴は，著者の二人が相談者と支援者の役割を担ってロールプレイをした，逐語記録を中心に構成されている点にある。ロールプレイをするにあたって，事前に打ち合わせなどは行わず，一

発撮りしたというから驚きである。こうした構成は，大変効果的であると思う。ライブ感や緊張感を重視したとあるが，提示されている7つの架空事例はいずれも私たちが実際に遭遇する可能性のある臨床場面がヴィヴィッドに描かれており，リアリティをもって読み進めることができた。私はさながら自分が相談者になったかのような気分で，性暴力被害について造詣の深い経験豊かな臨床家のスーパービジョンを受けているような感覚を味わうことができた。これが本書の魅力であろう。実際の臨床現場では，一人職場であることから相談できる先輩がおらず，また早急に対応しなければならないことから，外部のスーパービジョンを受けている時間的余裕もないことが多い。そうしたとき，本書にあたれば，具体的な指針を示してくれるであろうし，多くの示唆を与えてくれるであろう。

本書を執筆するにあたり，「どうしたら性暴力の被害を取り巻くさまざまな誤解や誤った認識を解きほぐしていけるのかと悩んだ」と著者はあとがきで書いているが，その言葉どおり，本書には支援する人だけでなく実際に性暴力に遭われた人に対する配慮が行き届いている。誰もが目を背けたくなるこの重いテーマに，真摯に向き合っておられる著者の二人には本当に頭が下がる。

本書を通じて私は，性暴力被害について自分がいかに無知であり，また認識をアップデートできていないかを痛感した。自分の過去の支援をふりかえり，そこに私自身の心理的バイアスがいかに関与していたかということも考えさせられた。本書をきっかけに，性暴力被害についてより深く学びたいと思ったが，それは長年この問題に携わってこられた二人の著者の志に感化されたからでもある。私のように，この問題にどこか距離を感じている支援者にこそ，本書の一読をおすすめしたい。